

露地栽培によるシクラメン省力生産技術の確立

第2報 品種の栽培適応性について

有野賢三・水越洋三・畠山順三

(秋田県農業試験場)

Labor Saving Cultivation of Cyclamen in Field

2. Cultivation adaptability of varieties

Kenzō ARINO, Yōzō MIZUKOSHI and Junzō HATAKEYAMA

(Akita Agricultural Experiment Station)

1 ま え が き

シクラメンの需要は鉢物の中で最も多いが、その生産は未だ手作業による割合が大きく、しかも長期間を要することが規模拡大を妨げている。この解決方法として、鉢替えの省略、かん水労力の節減などを図る必要があり、夏季冷涼な北東北の立地優位性を活かした露地栽培がこのねらいをみたすものと思われる。

シクラメンの露地栽培とは春から秋にかけての生育増大期を露地で栽培することであるが、露地栽培すると、慣行の鉢栽培に比較して、生育は旺盛となるが、やや粗剛さが出る傾向が認められる。

筆者らは露地栽培における品種の栽培適応性について検討し、品種選定上の知見を得たので、その結果を報告する。

2 試 験 方 法

1 供試品種

赤系： サーマンスカーレット・インブルード、ボンファイヤー、カルメン

ピンク系： キルシラック、カトレア・ローズ、ハーレカイン、アルゼンチン

白色系： ピュア・ホワイト

2 耕種概要

播種—昭和50年9月8日、鉢上げ(3号鉢)—昭和51年3月26日、露地定植—5月21日、掘上げ時期—10月20日、栽植距離—20cm×20cm、床幅—1m

上面にビニール被覆並びに黒カンレイ紗(#600)一重被覆した。

施肥法(a当り)： 基肥—堆肥300kg, N, P₂O₅, K₂O 各1kg(成分)、追肥—N, P₂O₅, K₂O 各2kg—2回分施(6/28, 7/25)

灌水は pF 2.0 を目安に 8ℓ/m² を灌水した。

3 結 果 及 び 考 察

草高、株張りからみると、大きくなる品種としてカルメン、ピュア・ホワイト、アルゼンチンがあり、中間的なものとしてハーレカイン、サーモンスカーレット、カトレア・

ローズがあり、小さいものとしてボンファイヤー、キルシラックがあげられる。

葉数は図1にみられるように、カルメンは特に多い品種であり、ボンファイヤー、ハーレカイン、サーモンスカーレットがこれに次いで多かった。これに対し、カトレア・ローズ、キルシラックは葉数の少ない品種であった。しかし、未展開葉数を含めればボンファイヤーは必ずしも葉数の多い品種とはいえない。

生体重についてみると図2に示すように、ほとんどの品種が葉数の多少を反映し、葉数の多い品種程大きかった。ボンファイヤーは葉数の多い割には小さい品種であった。

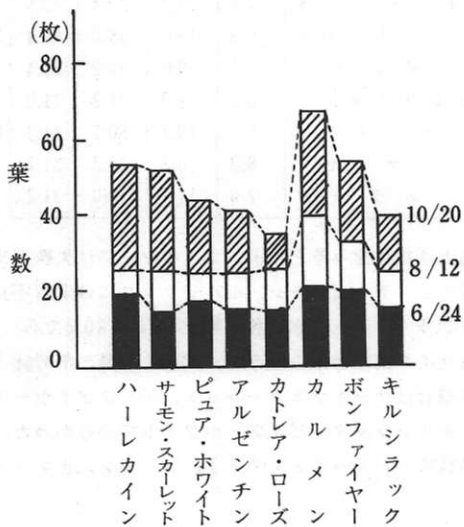


図1 葉数の推移

花蕾数を10月20日現在でみると(表1)、カルメンで最も多く、ピュア・ホワイト、サーモンスカーレットがこれに続き、ボンファイヤーが最も少なかった。なお、ハーレカインでは发育程度の進んだ花蕾の割合が高く、カトレア・ローズ、キルシラックではその割合が低かった。開花はハーレカイン、カルメン、ボンファイヤーで早かった。

葉の大きさをみると、キルシラック、アルゼンチンは大きく、サーモンスカーレット、ピュア・ホワイトは中間位、カルメン、ボンファイヤーは小さかった。

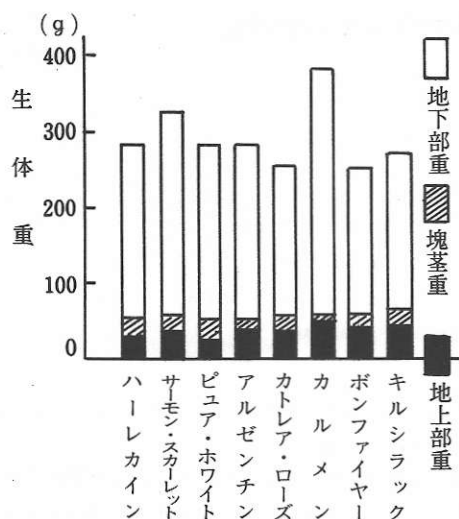


図 2 生体重の差異 (10月20日)

表 1 花蕾の構成

(10月20日現在)

品種名	サイズ別 5 cm 以上	5 ~ 3 cm	3 ~ 1 cm	1 cm 以下	計
ハーレカイン	15.8	18.2	32.8	27.6	94.4
サモン・スカーレット	7.4	17.2	39.4	35.6	99.6
ピュア・ホワイต์	5.8	19.6	38.0	40.4	103.8
アルゼンチン	5.2	9.6	32.2	31.4	78.4
カトレア・ローズ	6.2	9.0	21.2	21.8	58.2
カルメン	3.6	19.2	50.2	41.2	114.2
ボンファイヤー	8.3	10.3	25.3	31.7	75.6
キルシラック	2.0	11.2	30.0	31.2	74.4

堀上げ状況をみると、ボンファイヤーには欠株がやや多く発生し、アルゼンチン、キルシラックには生育不良株が比較的多く、堀上げ率は各品種とも70~80%であった。

鉢サイズ別割合からみると、大鉢(6号, 7号鉢)の占める割合はサモン・スカーレット、ボンファイヤーで大きく、キルシラック、ピュア・ホワイต์で小さかった。

品質についてみると(図3)、カルメン、ボンファイヤー

ーは草姿のバランスがよく、葉の大きさにバラツキがなく、葉の混み具合、しまりの程度などのすべての点で優れていた。これに対し、カトレア・ローズ、キルシラックではすべての面で劣った。サモン・スカーレット、アルゼンチンは中間的な評価となったが、葉が大きくなり、生育に露地栽培の特徴である粗剛さがみられた。又、ハーレカインは灰色かび病に弱いことが知られた。

以上の結果、生育に粗剛さがみられず、株立ちが玉型でコンパクトな感じに仕上がるカルメン、ボンファイヤーが露地栽培に適する品種と考えられる。

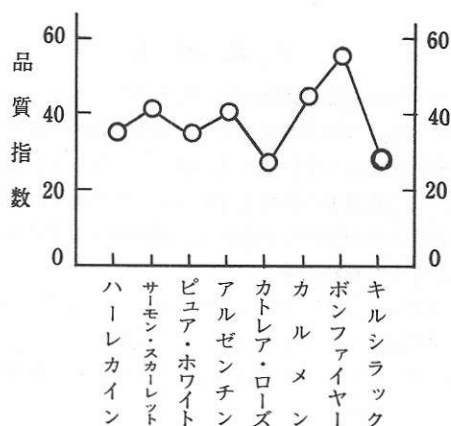


図 3 品質の総合評価

4 ま と め

シクラメンを露地栽培した場合、株立ちが立型のサモン・スカーレット、アルゼンチンでは、露地栽培することによって生育に粗剛さが強く現われるが、一方、玉型のカルメン、ボンファイヤーでは粗剛さがみられず、コンパクトな感じに仕上がることが明らかとなった。

更に、カルメン、ボンファイヤーなど赤色系の品種の他に、桃色系、白色系の適品種を選定する必要がある。